

令和6年度普及指導活動に係る外部評価の実施状況について

1 趣旨

2025 広島県農林水産業アクションプログラムの基本理念である「生産性の高い持続可能な農林水産業の確立」の実現に向け、農業技術指導所が実施する普及指導活動のさらなる充実・強化及び効率化を図り、成果の見える普及指導活動を展開するために、当年度の普及指導計画から選定した課題について、幅広い視点から外部委員より意見を聴取し、その評価結果を次年度の普及計画等へ反映させることをねらいとして実施した。

2 外部評価会議の内容

(1) 外部委員の構成

分野	所属・役職等	人数
先進的な農業者	指導農業士	1名
若手・女性農業者	専務取締役	1名
農業関係団体	農業団体課長	1名
消費者	消費者団体事務局長	1名
学識経験者	大学教授	1名
マスコミ	記者	1名
民間企業	経営コンサルティング会社代表取締役所長	1名

(計7名)

(2) 評価対象

ア 普及指導計画に定められた成果目標の達成状況

普及指導計画のうち、広島県内の半数の市町の普及指導計画を評価対象とした。

(全体 71 課題のうち 41 課題)

※41 課題を一覧として評価対象とするとともに、このうち、代表的な 6 課題について、より詳細な評価を実施した。

【代表課題】

課題番号	主な品目	担当指導所
①	水稻	西部
②	カーネーション	西部
③	なし	東部
④	水稻	東部
⑤	ぶどう	北部
⑥	肉用牛	北部

イ 評価課題の達成状況・普及職員の資質向上の取組

評価対象を次のとおりとした。

(ア) 評価対象課題全体の達成状況

(イ) 普及職員の資質向上の取組（普及職員研修体系と実施状況）

(3) 評価項目

評価対象	評価項目		評価の視点（例）
普及指導計画に定められた成果目標の達成状況	評価対象課題全体の達成状況		☐ 普及活動は計画どおり進んでいるか ☐ 普及活動の目標は達成しているか
	代表課題	普及指導活動の計画・課題設定	☐ 普及の支援対象として、対象者の選定は適切か ☐ 課題の現状把握、現状分析が的確に行われているか ☐ 課題の重要性が高く、課題解決・目標達成に有効な計画か ☐ 目標の設定、成果指標は適切か
		普及指導活動の進め方	☐ 活動方法と時期は適切か ☐ 効果的な所内の活動体制となっているか ☐ 関係機関との連携・役割分担はできているか
		普及指導活動の成果	☐ 普及指導活動の寄与により、目標が達成できたか（見込めるか） ☐ 成果を的確に把握分析し、今後の活動に向けた課題が整理できているか ☐ 他産地、他の経営体への波及効果があるか（見込めるか）

(4) 外部評価会議の開催状況

【第1回】※外部委員への事前説明

- ・日時：令和6年8月1日（水）10：00～15：00
- ・場所：県庁舎、ぶどう栽培ほ場

時間	内容	参加者
10：00～11：50	・普及指導活動の説明 （アクションプログラム、普及指導体制、普及指導計画等） ・評価対象6課題の概要説明	外部委員 農業技術指導所長、 課題担当者 農業技術課
12：50～15：00	・現地調査（評価対象課題のうち1ほ場） ・WEB調査（評価対象課題のうち1課題） （課題対象者からの概要説明、質疑応答等）	

【第2回】※外部評価の実施

- ・日時：令和7年1月28日（火）09：45～15：00
- ・場所：広島県東広島庁舎

時間	内容	参加者
09：45～09：55	・ 外部評価実施概要の説明	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
10：00～12：00	・ 評価対象6課題の実績報告 (令和6年度普及指導活動実績報告会へ出席)	外部委員 報告課題関係者 (市町、JA、農業者) 農業技術指導所 農林水産事務所（農林事業所） 農業技術センター 本庁関係課 農業技術課
13：00～13：45	・ 評価課題の質疑応答	外部委員 農業技術指導所(所長、担当者) 農業技術課
13：45～13：55	・ 評価事項の説明 (研修体系等、評価課題一覧の実績まとめ)	外部委員 農業技術指導所(所長、担当者) 農業技術課
13：55～15：00	・ 評価及び意見整理	

3 評価の概要と今後の対応方針

課題番号①

1 産地の概要

- ・集落法人等の担い手を中心に水稻生産が行われている。
- ・高齢化等による労力不足や、栽培技術が適切に継承されてこなかったことなどから、収量が減少傾向であり、経営への影響が懸念されている。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区 分	実施状況、成果等の概要
労務効率化・人材育成のためのマニュアル作成	活動経過	作業軌跡や作業時間が記録できる農作業管理システム（レポサク）を活用し、効率が良い作業手順をマニュアル化。また、作業軌跡でわかりにくい作業手順については、画像や動画を活用し、作業内容を分かりやすく見えるように工夫する。
	成果・課題	・作業時間を計測することにより作業の効率を数値化することができた。 ・非熟練者でも早期に効率的な作業ができるようなマニュアルを作成した。
生育調査定着化に向けたデータ分析支援	活動経過	法人自らがほ場の状況を見て適期管理が行えるよう、生育調査の現地支援を行う。生育調査結果を広島県の栽培基準と比較し、収量制限要因を自己診断できる原因分析シートを作成・運用する。
	成果・課題	・生育調査の重要性が理解され、実施参加法人が増加し、法人のみで生育調査を行う機会も増えた。 ・生育調査による実態把握と原因分析シート運用により改善策の選定までを法人自らで行うことが可能となった。
収量と品質向上に向けた収量コンバインの有効利用	活動経過	・収量コンバインを用いてほ場ごとの収量を測定し、結果の見える化作業（収量地図作成）を支援。 ・生育調査データ等と紐づけて、課題抽出や改善策の検討ができるよう促す。
	成果・課題	・収量地図を作成したことにより、法人の目標収量より劣るほ場が明確になった。 ・収量地図作成と合わせて、低収要因を整理したことにより、収量向上に向けた改善策を法人と検討することができた。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○作業を明確にし、マニュアル化していく過程にスマート農業が入っていることが良いと感じた。 ○熟練者と非熟練者との効率が見えるようにレポサク等を活用して工夫している点が良いと思った。	○施肥のタイミング等、もう少し密に生産者と情報共有した方が良いと感じた。 ○作業マニュアルが他の経営体に共有できた方が良いのではと感じた。	○今後もデータ活用や動画マニュアルにより労務効率化や人材育成へ活用できるよう引き続き検証・評価しながら改善に取り組んでいく。 ○他の経営体でも活用できるように、動画マニュアルの内容を経営体と検討し、作業初心者でも理解できる内容となるよう改善を図る。

課題番号②

1 経営体の概要

- ・切り花カーネーション生産者で、パートタイマー10名以上雇用し、社長の作業指示のもと日常の栽培管理を行っている。
- ・近年の資材価格高騰や賃金単価が上昇する中において、収益を確保し、経営を継続していくためには、労働生産性の向上と土地生産性の向上が必要である。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区 分	実施状況、成果等の概要
従業員の作業 能率改善	活 動 経 過	令和4～5年度の活動で、収穫作業の能率に差が生じている要因が「作業中の迷い時間」の長短であることがわかっている。令和5年度は、社長がパートタイマーと意見交換の場を設定し、現場での問題点、迷いが生じる要因等を聞き取った。令和6年度は、聞き取った内容を基に改善案をとりまとめて収穫作業の際に実行し、効果を確認した。
	成果・課題	各作業を経験が求められる指標を使って指示するのではなく、丈の長さ指示する方法を策定した。作業能率は、代替品種については分析中で、従業員からは「迷う時間が減り、指導しやすくなった。」などの意見が挙げられた。
LED 照射による 生産量向上	活 動 経 過	・生育促進効果があるとされている LED 照射を行い、植物体の土地生産性向上を図ることとし、効果を確認するため収穫本数、品質及び開花時期（収穫本数の推移）の調査を行う。 ・令和5年7月～令和6年6月に1作目のLED照射を行い、効果を確認した。令和6年度は、前年度の実証品種以外の品種にも導入する。
	成果・課題	・6月までの結果から、スプレー品種「恋心」については増収効果が確認でき、その採算が合う事も明らかにした。 ・恋心の結果を受け、他品種へも照射を開始した。（他品種の分析は来年度）

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○生産量向上について、①作業効率の向上と②生産方法の革新による生産性向上という2つのテーマに区分して設定した点は目標に接近する方法を明確化できるという点で評価できる。 ○労働生産性の向上、土地生産性の向上ともに成果を的確に把握し、目標を達成できている。	○品目ごとにマニュアルを作成していくのは大変だが、データのとり方もマニュアル化できれば農園で持続していけるため取り組んでほしい。 ○LED照射の効果がまだ確認できていない。	○整理したノウハウを経営者と共有し、農園内で持続的に取り組めるよう支援を行う。 ○LEDの照射効果を安定させるため、照射条件や他品種についての効果検証を実施する。また、成果については、研修会等で生産者と情報共有し、波及を図る。

課題番号③

1 産地の概要

- ・なしをはじめとする果樹を栽培している。開園から長い年月が経っており、樹勢の低下による生産量の減少や従業員、アルバイトの不足などが課題となっている。
- ・これまでに、樹勢を強化するために予備枝を活用したせん定や早期成園化及び作業の省力化を目的とした JV トレリス仕立てを導入し、新たな技術の普及を進めてきた。また、農園としての経営方針を明確にするために、専門家とともに経営指針書の作成と運用を支援してきた。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区 分	実施状況、成果等の概要
JV トレリス栽培の早期成園化	活動経過	・令和5年度までに作成・改定した JV トレリス仕立ての栽培マニュアルを補完するデータとして、6年生ほ場の着果数や葉果比、収量を把握する。 ・県内での普及可能性の検討のため、県内の他経営体とマニュアルの共有を進め、改善を行う。
	成果・課題	・着果管理については、従来どおりの仕立てと同様であったが、枝の発生が少ないことから予備枝の確保が難しいことが分かった。苗木の育成段階で細やかな管理を徹底するとともに、環状はく皮や接ぎ木を行い、側枝更新を計画的に実施することが課題である。 ・単収については、概ね目標を達成しており、順調に成園化が進んでいる。
スマート農業技術の実証	活動経過	・ひろしま seedbox で行う技術実証（低温アラートシステム等）について、生産者の活用意向や技術の改良点等を把握し、実証企業と情報共有することにより、普及可能な技術となるように支援する。 ・先行しているスマート農業技術を含め、大規模果樹経営における活用等について検討する。
	成果・課題	・晩霜害対策の軽減に有効であるという共通認識を持つことができた。一方で、精度向上や実際に利用する際の運用方法などには課題が残っている。 ・スマート農業技術の活用には、ほ場づくりや規模に応じた機械の開発、導入が必要であることが分かった。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○人手不足の中、収穫量を向上していくために、この取組は大変意義のあることであると感じる。 ○関連機関と情報交換を定期的に行いながら進めている点を評価できる。	○土地生産性が低い課題を面積でカバーする傾向があるように見受けられる。 ○今後、小規模農家にも見合ったマニュアルが作成されれば、JV トレリス仕立ては他の作物にも応用できるのではないかな。	○連年安定した生産が確保できる栽培の体系化を目指す。 ○技術開発と普及が期待される晩霜対策で現地実証に取り組む。また、改植と並行してスマート技術に適応したほ場づくりを検討する。

課題番号④

1 経営体の概要

- ・現在、社員 7 名を雇用し水稻と麦の経営を行っている。
- ・経営農地は中山間地域特有の小区画・多筆ほ場であり、これまで急速な規模拡大には、年間作業計画の作成と従業員の増員によって対応してきたが、収量が伸び悩んでおり、目標の収量には至っていない。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区 分	実施状況、成果等の概要
スキルマップの 効果的な運用支援	活 動 経 過	昨年度作成したスキルマップの有効活用に向け、重要度の高い作業におけるスキル習得程度の判断が可能な作業基準の作成を支援。
	成果・課題	法人に適した作業基準を作成したことで、従来の感覚的な作業判断から、基準に基づいた適正な作業判断へと転換が図られてきている。また、スキルマップへの落とし込みが完了したことで、社員個々の得意・不得意や、法人の強み・弱みが把握できるようになった。今後、人材育成において、作業責任者の選定や目標設定等に有効活用していく。
作業優先順位の 適正な判断支援	活 動 経 過	栽培管理ポイントを確認する機会を定期的に設け、各作業の意義等の理解度向上を図り、法人内で適正な作業の優先順位判断・実行ができる体制づくりを支援する。
	成果・課題	・適期管理の実施に向け、作業責任者を重点的に支援した結果、作業責任者の知識が向上したが、7月頃から繁忙期に入り、法人内で情報共有が上手くできず、優先順位の判断が適切に行われなかった。 ・ホワイトボードを活用することで、法人内で情報共有を円滑に行うことができ、作業漏れや負担の偏りも減らすことができた。適切な優先順位判断のためには判断の根幹となる材料収集と知識・技術力が必要不可欠であり、特に年々管理ほ場が増大する中、ほ場の異変等を早期に漏れなく察知・収集できる体制の構築が課題である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○スキルマップの活用や、朝礼時でのホワイトボードを利用し情報の共有を図っている点を評価できる。 ○スキルマップの作成工程について、生産者と指導所で協働しながら現場の課題に従って構築していった点はとても良い。	○品種別の基準を設定することや、作業判断をするのに、どのように意見をまとめていくのかもデータ化しておく判断基準がわかりやすくなる感じた。 ○ホワイトボードによる情報共有・見える化については、データを蓄積するなど今後検討いただきたい。	○若手社員等の人材育成支援を図る中で、自発的な改善取組ができるよう経営体の自立支援をサポートする。 ○法人内での技術力の高位平準化と法人自らが品種別の基準を設定することや、作業判断をできるよう支援する。

課題番号⑤

1 産地の概要

- ・就農者によって、安定生産や経営管理に課題がある。
- ・当初計画を上回る雇用費等が経営を圧迫しているため、経営及び栽培の両輪による支援が必要である。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区 分	実施状況、成果等の概要
新規就農者の育成	活 動 経 過	(1) ほ場巡回での作業進捗確認、房数管理等を支援する。広島県経営評価システムによる経営課題の明確化、対応策検討を行う。 (2) 営農計画に沿った樹冠拡大を目指す。 (3) 土質調査に基づいた排水対策を支援する。 (4) 栽培研修会を実施し、基礎的な栽培管理技術の習得を目指す。
	成果・課題	ほ場巡回と経営分析により、現状把握ができ排水性が改善した。今後は、排水対策を年間作業計画に位置付け、資金管理による経営改善を図る。
栽培マニュアルの作成と活用	活 動 経 過	(1) 産地の栽培管理技術を整理する。 (2) 熟練者の作業を動画で撮影し、動画付き栽培マニュアルを作成する。 (3) 新規就農者や研修生が栽培マニュアルを活用し、早期技術習得が可能となるよう支援する。
	成果・課題	熟練者の栽培管理技術を整理し、動画付き栽培マニュアルを作成した。今後は運用ルールを整理し、研修カリキュラムや若手講習会、従業員育成での活用に向けて、関係機関の合意形成を図る。
産地提案書の作成	活 動 経 過	三次市新規就農推進チーム会議で新規就農者の経営状況及び課題を共有する。就農希望者が目指す経営モデルを作成する。
	成果・課題	独立就農する前提条件を関係機関と共有できた。今後は、関係機関と経営実績の検証を行うとともに、経営モデルの活用について合意形成を図る。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○栽培技術をベテラン農家の目線カメラで何度も見られるのはとても良いと思った。 ○排水対策について、この課題に取り組んだことで得られた情報は当該生産者のみならず、他の若手農業者にも有用なものであると感じる。	○就農後について、関係者が連携してフォローできる仕組みを持てば就農者は安心して作業することができると思う。販売先に困らないように対応してほしい。	○令和6年度に関係機関に働きかけ、早期経営安定のための課題提起や販路検討などに取り組んできた。引き続き連携して①研修、②就農、③早期経営安定の仕組みを段階的に構築、改善していく。

課題番号⑥

1 経営体の概要

- 令和5年度に親子間で経営継承を行った経営体で、肉用牛の繁殖経営に取り組んでおり、法人化や雇用創出に向けて情報収集やサポート事業等を活用した検討を進めてきた。
- 和牛繁殖経営体では輸入飼料価格の高騰と子牛価格の低迷が続いており、対象経営体においても売上に占める飼料費の割合が令和3年から4年の間で2倍以上となった。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区 分	実施状況、成果等の概要
規模拡大に向けた中期計画の作成	活動経過	正社員雇用に向け数年以内の法人化と規模拡大の展望があるので、目標に向けて中期計画の作成を支援する。
	成果・課題	中期計画作成により構想が整理・可視化された。また、これにより関係機関で今後の課題やスケジュール感が明確に共有できた。今後は中期計画に従い牛舎の建設、経産肥育牛肉の販売開始等に向けた活動、進捗管理の支援を行う必要がある。
自給飼料作物の栽培指針作成	活動経過	単収向上に向けて牛ふんと鶏ふんの混合堆肥の混合割合を検討するため、栽培試験を行う。この結果を基に自給飼料栽培指針を作成する。
	成果・課題	試験結果及び実用性を踏まえて検討を行い、7:1の割合を基準とすることとした。これにより、自給飼料作物の収量向上のための栽培指針を作成した。今後も作成した栽培指針を参考に安定した自給飼料生産の支援が必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○子牛の価格が低下する中、コスト削減を伴走支援するのは多くの畜産農家にとって意義があると思う。 ○経営計画の作成と、自給飼料の栽培指針作成という経営・技術両面での活動を進めるという経営向上に効果的な展開であると思う。 ○コスト削減と生産性向上は当該生産者のみならず普及性が高い。また、経営理念をしっかりと固めたことは今後の当該生産者のぶれない経営計画策定にとって重要である。	○規模拡大に向けた中期計画はもう少し具体化が必要だと思う。 ○自給飼料作物栽培指針を完成させて他の参考になるように広めることを期待する。	○今年度作成した栽培指針を活用して自給飼料栽培支援を行う。生育状況や収量の聞き取りを行い、必要に応じて栽培指針のブラッシュアップを行う。 ○中期計画を具体化して実現していくため、次年度は年度目標のパート雇用や牛舎建設の準備を月次の行動計画に落とし込む進捗管理支援の活動を計画する。 ○関係機関と引き続き協力して活動計画に対する進捗管理と支援を行う。

対象課題

1 対象

- ・県内 14 の産地育成課題及び 27 の経営体育成課題。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

- ・令和 6 年度の「売上目標」「成果指標の達成状況」「普及指導活動の成果と課題」「今後の対応」を一覧として整理した。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
○各農家にあった課題を抽出し、取り組んでいると思った。すぐに着手できるところ、長期的に見ていくところがある中でしっかり計画してあると感じた。 ○普及指導計画に則り、精力的に活動に取り組まれ、目標を達成していると考ええる。○今の広島県における農業普及指導事業の進め方は、農業者のニーズに沿ったものであるだけでなく、地域農業の持続性を向上させる取組となっているといえる。	○食料・農業・農村基本法が改正され多様な担い手の支援が挙げられ、小規模農家への取組が必要になると感じるため、そちらにも支援をお願いしたい。 ○他産地、他経営体への波及効果としては、各取組の成果が未完成だったり、課題の整理が必要だったりしているので、完成したもので広く横展開をしていただくことを期待する。	○引き続き経営発展意欲のある経営体及び産地に対し、効果的な普及指導活動を展開できる指導体制をとる。 ○現在の計画の目標年度である令和 7 年度までの実績を踏まえ、次期普及計画の内容を検討する。